

輝かしいバトン部っていうイメージやと思うねんだけど、それに至るまでにそういう苦労があつたっていうのもある

語り手 北村明日叶（高校十五期生 スポーツ健康科学部）

聞き手 澤 夏帆

高校から現在

―澤夏帆と申します。自己紹介や学部、今までどんなことしてきたかみたいなのを言っていたらなと思います。

北村明日叶です。お願いします。三回生で、スポーツ健康科学部っていうところでスポーツのことを勉強してるって感じです。バトンをずっとやってきて、高校でもバトンを三年間させてもらってた。そこでのいろいろ経験させてもらった後に、大学でも続けて頑張ってるっていう感じです。

―すごい。何歳頃からバトン始めたんですか？

始めたのは小学一年か、二年ぐらいやって。始めたきっかけがお母さんやってんな。お母さんがほんまはチアをやらせたかったんやけど、チア教室が近くになくて、で、たまたま、伏見区のところでバトン教室が開いてて、「見学できませんか。」っていう感じで、お母さんに勧められて始めた。

―お母様がチアダンスを勧めた理由とか、なんですか？

いや、全然わかんない（笑）。何かやらせたかったんかなと思って。まあ、チアって可愛いやんか。だから、そういうのをやらせたかったんかなとは思った。

―小学校一年生から始めて、中学校もやって高校もやってるってなったら、「あなたバトン上手ね。」みたいな部類の人っていう感じだったんですか？

自分は……なんやろ……。バトンの教室に入った理由も、友達がいたからで、小学校の友達が一人おって、その子がいたから入ったって感じやから。なんとなく始めて、ほんまになんとかでずっとバトンやってきたんやけど。うーん、その子が（バトンを）辞めて、ちよつと本格的にやり始めたのは中学生ぐらい。でも、バトン業界って、めっちゃちっちゃい時から本格的にわーってやってる人がやっぱレベル高かったりするから、そこまでのレベルでは全然なかった。だから、なんか個人で表彰されるとかは全然ないし。たまたまそういう環境に居させてもらったって感じかな。高校、大学は。

―高校はなんで立守にしたんですか？

高校入る時に、バトン部っていう部活をやってみたんだけど、あつて。いろいろ、バトン部がある強豪っていうか、全国大会とか、そのチームで、レベル高いところを見てたんやけど、立守って、学歴がさ、レベル高いやんか。

―まあ、FT頼りなところはありますけど（笑）。

せやけど（笑）。中入生より高入生の方が多分入るのは難しいやんで、立守にバトンがあるっていうのを知って。バトンの踊るスタイルっていうか、作品のスタイルがめっちゃ好きやってんな。あと、小学校の時に教えてもらったクラブチームの先生が、その立守バトン部の最

初のコーチやって。だからそこに入れたらいいなっていうのはあったけど、やっぱりレベル高いし、どうしようって迷ってた。けど、中学の時に入ったクラブチームの、その時に、現役で通ってはった立守バトンの先輩が、クラブチームにも来てはって。その先輩は、学力はもともと足りひんかったけど、めっちゃ勉強して立守入ったっていうのを聞いて。その話を聞いた中二の時は全然学力足りてなかったけど、一年頑張って勉強したら、入れないこともないなと思って、志望したかな。その期間ほぼバトンの大会とかは出ず、一年休んで受験勉強したかな。

—私が中入でしかも推薦なんです。だから受験を経験したことがないから、本当に、すごいですね。

その時は大変やった(笑)。

—ですよ。ほんとに尊敬しかないです。頂いた用紙に、「素晴らしい結果をいただくまでにたくさんの苦悩やメンバー間での衝突があった」とっていうのが書いてあって。どんな苦悩とかメンバー間の衝突があったのかなっていうのがちよつと気になっていて。

ああ。そもそも、今の大学の部活は高校と違ってレベル高いんよね。選手を推薦でとってきてるから。世界大会とか今年も行かはるんやけど、世界大会に出てる人とか、個人で上位に居る人とかが推薦されて集まってるから、自分は高校から入ってるっていう立場で、個人で別に表彰もらってるわけじゃないから、すごい(推薦組の)レベルが高かったんよな。入った時は。で、まずそこについていくのが一回生の時は大変やったな。やっぱりレベルの差はめっちゃ感じたけど、入ったからにはやっぱ追いついていきたいしっていうのがあって、頑張つてはいたけど、やっぱ全然届かへんし。足を引っ張ってるのはずっとあったから、そこをもうひたすら練習して。オフの日とかも練習に時間使って、

その差を埋めていったっていうところは、結構大変やったかな。
—すごい努力家ですね。

いやいや、でも、そうしないとほんまにやばかったから。これが一回生の時の話。で、二回生で大変やったことは、自分が先輩になって下がいるっていうのと、上にもまだいるっていう状況で大変。立場がすごい難しいなっていうのは思ったし、先輩にこうしたいですっていうのも全然言えなかったっていうのがあって、それは結構悩んでたかなと思う。今は三回生やからできることも多かったりすんねんけど、やっぱ一、二回生と、三、四回生で、上回生と下回生で分かれた時に、二回生っていう立場は別に上でもないけど、一番下でもないから、その間のコミュニケーション取るのはすごい難しかった。その時(二回生)の代は、三、四回生が仲良かって。他の人はわかんないんだけど、意見を言うっていうことすら結構難しかった状況かなと個人的には思う。

—ギスギスはしていたわけではない？

ギスギスはしてないな。根本にある仲の良さはそもそもあるんやけど、部活の練習面とか、それ以外の、挨拶とか。そういう基本的なところを見た時の衝突っていったらいいかな。そんなんが結構あった気がする。うん、大変やった。

高校時代

—立守での思い出みたいのありますか。部活でも、文化祭、体育祭とかなんでもいいので。

いっぱいあるな。部活のこともそうなんやけど、学校のことと両方あんねんな。部活の思い出は、やっぱ全国大会に出たっていうところ。高三の時に全国大会に出たところが一番やな。うん、やっぱ。高一、高

二は出られなかった。高一是コロナで。高二是ちよつといろいろあつて出られなくて。高三でやつと掴めた全国やったから。それは、いっちゃ嬉しかった。立守で、全国出たいと思つて入つた部分があるから。

―じゃあ、本当に念願が叶つたつて感じですよ。

大変やつたけどな。高三の時に、手続きの行き違いで大会に出られなかったんだよ。自分らの実力つていうわけじゃなくて。今の（立守）バトン部の子がそのことを知ってるかはわからんけど。全国に推薦いただく部門があんねんけど、その部門にもエントリーできない状態で。

―大会にも出られなかったんですか？

いや、大会には出れんねんけど、全国出場をそもそも狙えないつていう部門。なんかも関西大会で終わりの部門にいたから。その時はほんまにやばかつたし、結構絶望やつたな。

―でも、三年生の方とかもつとやばくないですか？

そうそうそう、私が高三の時の高三の先輩めつちや好きやつてんな。たくさん可愛がつてもらつてたし。一年の時からずつと私はチームのメンバーに入れてもらつてたから。二年間ずつと同期よりも、その先輩方とやつてきてたから、全国出たいつていう気持ちが大きかつたねんけど。やつばそういうことがあつて、高三の先輩からしたら、もうそこで終わりやからさ。全国出れへんのはもうマジで悔しかつたと思うけど、それを見てるのもきつかつた。高三の時は。

―それは、本当に言葉が出ないです。

びつくりするよな。多分、輝かしいバトン部つていうイメージやと思うねんけど、それは間違いないし、自分が高三で出た時はそういう感じやつたけど、それに至るまでにそういう苦労があつたつていうのもある。コロナつていうのもあるし、コロナの時はもともと全国大会自体が

もうなかつたから。でも、みんなそれは同じ条件やし、高校生は。だけど、その次の年だと、自分が高三の時は全国大会狙えるし、全国大会もあるつて分かつた状態で全国大会の出場権がないつてわかつた時はほんまに絶望した。正直、高三の時はもう苦しい思い出しかない。実際。けど、先輩と最後まで一緒にできたつていうのはすごいよかったし、違う大会に出てんな。全国出れへんかつたけど、十二月にある違う別の大会に出て、そこで納得いかんけど、腑に落ちる状態で終われたから。そこはチームとしてはよかったつて感じやけど、でも全然納得いつてなかった。しかも、今までずつと歴史があつてさ。連続でずつと全国大会に出ててんだけど、そこで一回ストップになつてしまつて、その手違いで。そこからまた高三になつて、自分らが出場権を失つた状態で、歴史を作り上げていかなあかんつていうところも、高三の時はプレッシャーやつた。もうここで出れんかつたらこの先、未来ないなと思った。立守のバトンに。そう思うぐらい責任は大きかつた。

―全国に連続で出場することで、全国出場優先権的なものがあつたんですか？

優先権みたいなのはないねんけど、関西大会予選で、枠が決められてるのが、去年出た数を参考にして出すから、その高三の時にあつた枠がそのままあるわけじゃなくて。だから、自分らが全国推薦の部門に出てなかつたから、その枠が高三の時は一個減らされた。必然的に難しい状態ではあつたし、ほんまにちゃんと戦わないと全国に出れへん状況ではあつたから、すごい高三の時は大変やつたな。自分たちがどのレベルにいるかつていうのも全然わかつてない状態だったから、高三の時は。やつば高三の時にライバルと戦つてないから。でも、全国出場できたから、そこは達成感がある。それを今、後輩たちがどんどん続いてい

ってもらってるのもすごいありがたいし、だから頑張っしてほしいと思う。選手っていう状態は一緒やからさ。感じれることは一緒やし。でもやっぱり、高校の時、それがあつたから大学続けてたっていうのもある。実際、高校から大学にバトン部入るかっていうのをすごい迷ってたんだ。大学のバトン部に入るかを迷ってた時に、やっぱそういうことがあつて、まだ続けられる環境があるっていうのもあつたし、まだ全国出たいなっていうのがあつたから、バトン部に入ってた大学の部門で全国大会出れるっていうのは、ありがたいことやなっていうのは毎年感じてる。ほんまにありがたいことに（出場メンバーとして）出さしてもらってるし、大学は出るだけじゃなくて、高い目標を掲げてやらしてもらってるのはすごいありがたいかな。

―なるほど。ちなみに、学校生活での思い出とかは？

それはもう文化祭やな。一日目か二日目か忘れてしまったんやけど、オープニングやつて。自分が懂れてた舞台でもあつたから。立守に入つて、先輩たちのやつを見てきたから、高校の時はそれが出れて嬉しかったなっていうのもあるし。（高校三年生時の）劇もクラスがめっちゃ好きやったから。役者としては出てなくて、裏方みたいな感じで楽しかった。クラスも女子七人とかしかおらんかったけど、男子が皆仲良かったから。クラスに一人くらいは、引つ張つていつてくれる子がいると思うんだけど、その引つ張ってくれる子がおとなしい子とかを立たせたりするクラスやつたから、みんながみんな生き生きしてたクラスやつたかなって思う。恵まれてた。先生と生徒の仲も良くて。その時に担任だった伊藤先生がめっちゃよかった。あのクラスに合ってたから。先生も含めてのクラスって感じで良かった。

将来や中高生へのアドバイス

―将来のお仕事とかつてもう決まってるんですか？

今ちようどやつてるところで、就活を。目標とか、夢とかは別に明確にあるってわけじゃないねんけど。でもキャリアアウーマンにはなりたくなつていうのはあつて、仕事は頑張りたいタイプやから。部活がそもそもストイックやなと思うし、そんな環境にいたらそうなると思うけど。そんな中でもやっぱ、うん、負けん気は強いかもね。

―高校でやっておくといいいいことありますか？

ええ（笑）。なんやろ。そんな上からなことは言えんねんけど。もう、今のうちに経験とか積んどいた方がいいと思う。就活つて、成果よりも人間性を見られるんよ。その成果を出したすぎさ、例えば「優勝した」とかよりも、その優勝した中で自分が何を頑張ってきたかの方が大事やねんな。勉強とかも、もちろん頑張るべきだけど、私的には経験とか探究活動とかを頑張るべきだと思う。ただ、今のうちにほんまにやりたいことやつて、とか（やりたいことを）見つけた方がいいと思う。経験は正直なんでもいい。ちっちゃいことでもいいし、例えばバイトとかでもいいし、大学やつたらゼミとか全然いろいろあるねんけど。内容はなんでもいいけど、そんな中でどれだけ頭を使ってきたかをめっちゃ見られるから、面接とかは。それで、働くイメージが多分企業さんからしたら持てるかどうかで、採用するかしないかを決めはるから。今は、プレゼン発表とかつてあるん？

―あります。英語とかで。iPadとかMac使ってます。

せやんな。あんなんてまず大学で教えてくれへんから。そのWord、Excel、パワポとか使うやんか。そもそも大学入ってくる子たちは使い方どうやってやんの。とか、タイピングが遅かったりすんねん

な。だから、使い方を教えてくれる先生もいるけど、ほぼ教えてくれる先生が多いから、まずそこで差がある、入った時に。だから有利やねん。でも、頭で負けんねん。大学から入った人めっちゃ賢かったり、物事に対しての考える力があるから、そこは結構私も負ける。負けるってか、負けて当然なんやけど、足りないところがいっぱいある。

―なるほどなるほど。今の高校生とか中学生に、アドバイスっていうか、こういうことやつとくと将来こんなことに生かせるよ的なことありますか？ 後悔してることじゃないですけど、「私この時こうやったらよかった」みたいなこととかあるんですか？

うーん。結構もう高校でやるべきことやってきたってタイプだな。正直、あんまり後悔とかない。残さなかったためにやるべきことをやってきた過去ではあるから、（高校時代が）好きなんやろな。メッセージっていうか、伝えたいことは……、自分のやりたいことととことん挑戦したらいいと思う。それが一番やし。やりたいことは大学生でもできるけど、やっぱ高校の時にやりたいことがそのまま大学の「何やりたいか」っていう判断材料になると思うから、そこで見つけとくのは結構大事ななと思う。そこで経験つけてたらもつとでかい。選択肢の幅が広がる。自分の好きなこと、やりたいことを見つけてやるのが一番かな、やっぱり。別に、おっきな夢とかはなくていいと思う、正直。あったらそら、専門的なところまで行けるからいいと思うけど、正直やりたいことってか、夢ってない人が多い。ある人の方が珍しいと思うてるから。私もないんやけど。そういうのは別に探していく期間でもあるから（大学生が）、今はそこで無理に決めなくていいと思う。

―めっちゃやためになる話で最高です。長い間お話、ありがとうございます。

ううん。むしろこんなんで大丈夫なん？

―全然大丈夫です。いいものが書けると思っています。

【感想】

バトンに学生時代の大半を注ぎ、後悔しないように全力を尽くしてきたという、そのストイックさが心に残りました。飽き性な自分にとつて、長い期間にわたり一つのことに熱心に取り組む姿勢は大きな感銘を与えてくれました。明日叶さんのお話を伺い、残り少ない学生生活の中で、自分もやりたいことや好きなことを見つけ、とことん挑戦していきたいと思います。



右：語り手 北村明日叶さん
左：聞き手 澤 夏帆